

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第671号 平成26年1月14日

### 就職3年以内の離職

厚生労働省は、毎年高校や大学などを卒業し新卒採用された若者の離職率を調べていますが、それによると、下表の通り、2010年に就職した若者のうち3年以内に辞めたのは、大卒31%、高卒約39%、中卒約62%に上る事が明らかとなっています。

大卒の場合、2010年に就職したのは約36万6千人ですが、その内約11万3千人が3年以内に離職しています。

さて、この表からは、事業所の規模が小さい程離職者が増える傾向にある事が分かります。

#### 新規学卒就職者の事業所規模別離職状況(厚労省調べ)

	全体	~4人	5~29	30~99	100~ 499	500~ 999	1000 ~
大卒	31.0	61.1	50.3	38.3	31.0	28.2	21.7
短大等卒	39.9	57.4	47.8	49.3	36.9	30.3	26.8
高卒	39.2	66.6	57.3	47.4	36.3	28.1	19.3
中卒	62.1	78.4	71.7	67.6	71.5	66.7	9.3

注:この表は、平成22年3月卒業者の就職後3年以内の離職状況を示したものである。

これは、事業所の規模が小さい程、将来性に不安があったり、給与等の労働条件が厳しくなったりする一方、職場研修等スキルアップに向けた機会も少ない事等が背景にあると考えられます。

また、中卒者について見ると、1千人未満の規模の事業所では7割から8割の若者達が3年以内に辞めてしまっています。その原因は人によって様々だと思いますが、基礎的・基本的な学力不足によって新しい職業生活に対応出来ない事が大きいのではないかと、懸念されます。

また、離職率については、業種別でも大きな差があります。例えば、大卒の若者の離職率を業種別に見ると、宿泊業・飲食サービス業(51.0%)、教育・学習支援業(48.9%)、生活関連・娯楽業(45.4%)等の業種では離職率が高い一方、電気やガス等のライフライン産業(8.8%)、鉱業・採石業等(13.6%)、

製造業（17.6%）では離職率が平均を下回っています。

ライフライン産業や製造業の様に離職率が低い業種は、事業規模の大きな企業が比較的多い為かも知れません。

3年前というと、就活は依然として厳しい環境にあった筈です。そうした中、折角就職出来たというのに、一体何故、これ程多くの若者達は、就職して3年以内に辞めてしまうのでしょうか。

一つの原因は、就職に対する若者達の認識の甘さというものがあると思います。

最近は、「ミスマッチ」という言葉が頻繁に使われる様になって来ました。「本人の希望と実際の業務内容が旨く噛み合わない」という事ですが、そんな事は昔からあった訳で、私が若い頃は、「石の上にも3年だ。色々不満があっても、3年間は我慢して勤めろ」といわれたものです。しかし、近年は「石の上にも3年」というのは死語に等しく、若者達の「忍耐力が低下している」という事は、あながち否定出来ません。

ただ、現状を見ると、単に若者達の「忍耐力不足」や「わがまま」というだけでは済まされないものが有る様に思います。

特に指摘して置きたい事は、「ブラック企業」あるいはその予備軍的な会社が増えているという事です。採用した職員を、長時間労働や厳しいノルマを課す等、過酷な労働条件で使い捨てて恥じない「ブラック企業」の存在は、若者達の生活設計のみならず、日本の将来にとっても暗い影を落としています。

こうした状況を改善する為には、国において「ブラック企業」に対する規制や監視を強化する必要がありますが、一方では、若者達自身もしっかりとした職業観・勤労観を持ち、競争力のあるスキルを身に付ける努力をすべき事は、いう迄もありません。（塾頭：吉田 洋一）